

透析患者の合併症 **メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染**

透析における様々な合併症として今回は、「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染」です。

どんな病気？

一般細菌の中には、抗菌薬が効きにくい菌があります。抗菌薬を必要以上に長く使用していると、細菌もそのような抗菌薬に対して抵抗力を獲得していきます。このような細菌を「薬剤耐性菌」といい、効果がある抗菌薬は限られてくることになります。そのような菌としてもっとも感染の頻度が高いものが、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）です。MRSA 感染症は、メチシリンや多くの抗菌薬に対して耐性を示す細菌に感染した状態です。

原因は？

MRSA に感染すると、肺炎、敗血症、腸炎および皮膚感染症などを来します。透析患者さんのなかには鼻腔にこの菌をもっている人がいて、そのような人が発症します。また、カテーテル類を留置している透析患者さんでは、そこから菌が血液に入り、敗血症を起こすことがあります。健康な人にはあまり病原性を示しませんが、透析患者さんなどの免疫力が低下した人では発病するようになります。

こんな治療を行います

まず細菌培養で菌の種類を確認し、薬剤耐性を調べます。このような耐性菌に対する治療は、細菌に対する抗菌薬の効果を調べて有効な薬を選択する必要があります。MRSA に効果がある薬はいくつかあります。点滴で使用する場合には、透析患者さんは腎機能がないため、腎排泄の薬は減量して使用する必要があります。腸炎の場合は内服薬があります。

早期発見と予防 こんな症状があれば医療スタッフにすぐ報告を

感染している臓器によって症状はそれぞれ異なりますが、前もって鼻腔などに菌が見つかっている人で発熱などの症状があった場合には、MRSA 感染を起こしている可能性があります。また、一般抗菌薬による治療を受けていても熱が下がらないときなどは、MRSA などのような耐性菌による感染が考えられます。